

令和 2 年度保険料率について (支部評議会における主な意見)

令和元年 10 月に開催した各支部の評議会での意見については、昨年と同様、理事長の現時点における考え（状況に大きな変化がない限り、基本的には中長期的な視点で保険料率を考えていくこと）を評議会で説明した上で、特段の意見があれば提出していただくこととした。

意見書の提出状況並びに平均保険料率に対する意見の概要は以下のとおり。

意見書の提出なし	13 支部 (9 支部)	※()は昨年の支部数
意見書の提出あり	34 支部 (38 支部)	
① 平均保険料率 10%を維持するべきという支部	21 支部 (18 支部)	
② ①と③の両方の意見のある支部	7 支部 (13 支部)	
③ 引き下げるべきという支部	2 支部 (6 支部)	
④ その他(平均保険料率に対する明確な意見なし)	4 支部 (1 支部)	

※ 激変緩和措置については、計画的な解消以外の意見はほぼなく、保険料率の変更時期についても、4 月納付分 (3 月分) 以外の意見はほぼなし。

令和2年度保険料率に関する評議会での意見(鳥取支部)

令和元年10月28日に開催した評議会での議論を踏まえ、次の意見について報告します。

【評議会意見】

- 保険料率10%維持と引き下げの両方の意見が半々のため、両方の意見があった、として支部評議会の意見とすることで決定。

【学識経験者】

- 事業主の方と話をすると、賃金が上昇している状況にあることを感じる。ただし、人口構造が変わっていく2025年を見据えて10%を維持していくことが必要だと思う。

【事業主代表】

- ようやくシミュレーションでも準備金が最後までプラスとなる見通しも出てきた。これも全国の評議員の意見があつての変化。しかし、まだ「赤字構造にあり危ない、将来的に不安だ」という説明が資料に多い。もう少し実態に合った数字を出す努力をしていただきたい。
- シミュレーションでは、準備金は最大5兆円にもなってくる。準備金の枠を超えているのでは。例えば、「準備金が5兆円貯まったので、5年間は大丈夫」と言った方が加入者にもわかりやすい。不安を煽ってばかりのやり方はよくない。
- 準備金は、企業で言えば内部留保であり、本来は研究開発や設備投資に使うもの。現在、協会けんぽの準備金はただ置いておく状況にあり、何の役割も果たしていないのでは。
- 保険料率10%は限度。10年後に保険料率を上げるという考えなら、下げられる時に保険料率を下げた方がよい。10%を10年後も維持していくという覚悟を持って政府と折衝し、補助率を上げるなどの取り組みが必要。足りないから保険料率を上げるという安易な考え方はおかしいのではないかと。10%を維持する方法を考えないといけない。

【被保険者代表】

- 制度の安定的な運営が必要。ここ4~5年は準備金が積みあがり、安定した運営がされていると考えられる。ここで積み上がった準備金を加入者に還元することをしてよいのでは。今後1~2年、保険料率を下げるのもよいと思う。